

高速増殖炉サイクル技術の研究開発について (案)

平成 14 年 12 月 17 日
原子力委員会メッセージ

1. 高速増殖炉サイクル技術は、原子力委員会が平成 12 年に策定した「原子力の研究、開発及び利用に関する長期計画」(以下「長期計画」という。)等において、ウランの利用効率を飛躍的に高めることができ、高レベル放射性廃棄物中に長期に残留する放射能を少なくする可能性を有していることから、将来の非化石エネルギー源としての有力な技術的選択肢と位置付け、着実にその開発に取り組むことが重要であるとしています。
2. 平成 7 年のナトリウム漏えい事故以来運転を停止している高速増殖原型炉「もんじゅ」については、平成 9 年に設置した「高速増殖炉懇談会」等において、あらためてその意義、役割を検討してまいりました。この結果を踏まえ、「もんじゅ」は、「長期計画」において、我が国における高速増殖炉サイクル技術の研究開発の場の中核として位置付け、早期の運転再開を目指すこととしました。
3. 「もんじゅ」については、ナトリウム漏えい事故の再発防止対策等に必要な改造工事を行うための原子炉設置変更許可申請に係る諮問が、本年 5 月に経済産業大臣から原子力委員会及び原子力安全委員会に対して行われ、原子力委員会では、原子炉等規制法に基づく審議を行い、本日の答申に至りました。
4. 今後、「もんじゅ」は、安全確保を大前提とし、立地地域を始めとする社会の理解を広く得つつ、一日も早く運転を再開し、併せて MOX 燃料製造など、高速増殖炉サイクル技術の研究開発を進めることが重要であり、関係者の一層の努力を希望します。
また、高速増殖炉サイクル技術は、我が国の核燃料サイクル政策の不可欠な要素であり、原子力委員会も高速増殖炉サイクルの実現に向けて積極的に取り組んでまいります。